

保健センター検査課だより (臨時号)

正確な検査結果を出すために

今回は溶血・乳びによる影響と溶血させないための採血方法をまとめてみました。

溶血検体で影響がある項目

高値を示す理由は、血球中濃度が血漿中濃度より高いことから起こります。

◇ 主な項目:LDH、K、AST、Fe、NSE、TP や、それに伴う蛋白分画、LDH アイソザイム

低値を示す理由は、血球内から濾出した酵素により分解されることから起こります。

◇ 主な項目:インスリン、BNP

溶血の度合いが強い場合、上記項目以外でも測定上影響を受け正確な値が得られなくなります

乳び検体で影響がある項目

乳びは食後の脂肪が血中に入り、分解される前に採血された場合によく見られます。

食後 10 時間程度空けて採血すると殆ど場合は解消されますが、脂肪の多い食事をされた後や脂肪を分解する酵素がうまく働いていない方は乳びする事があります。

TP や中性脂肪が影響を受けますが、乳びの度合いが強い場合、他の項目でも測定上影響を受け正確な値が得られなくなります。



溶血(-)(+)(3+)



乳び (-) (3+)

溶血をさせないための資料を裏面に記載しておりますので御覧ください

溶血させないために

1






採血部位は消毒後、十分乾燥させる

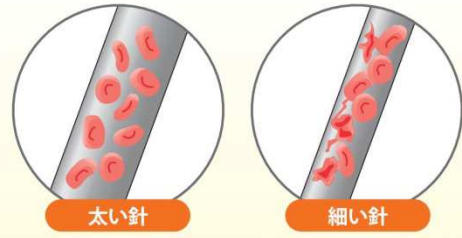
2

23Gより細い針は使用しない

赤血球が針を通過する際の抵抗で
血球皮膜が破壊されやすくなります。

ゲージ(G)	21G	22G	23G
外径	 0.8mm	 0.7mm	 0.6mm

※BIRMINGHAM WIRE GAUGE



※イラストはイメージ図です。

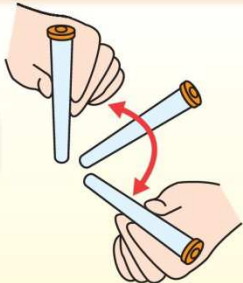
3



シリンジ採血時、強く引かない&強く押さない

注射針の中を勢よく血液が通過すると圧がかかり血球皮膜が破壊され溶血する可能性があります。

4



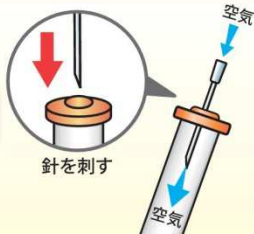
転倒混和時に泡立てない

採血直後5回以上、**ゆっくり**転倒混和を行ってください。

●テルモのFC管*は特に念入りに10回以上転倒混和を行ってください。

*FC管は、解糖阻止剤が含まれており、試薬が溶けにくい性質があります。

5



平圧戻し

定量採血できなかった場合は、管内に陰圧が残っています。
陰圧の影響で血球皮膜が破壊され溶血する可能性があります。
転倒混和後、ゴムに注射針を刺し、外気圧と平衡にしてください。

※参考資料・標準採血法ガイドライン—GP4-A2(日本臨床検査標準協議会)・ペノジェクトII真空採血管(滅菌品)添付文書(テルモ)・ペノジェクトII「真空採血システム」取り扱いのポイント(テルモ)

◇本件に関するお問い合わせは検査課までお願いいたします。 TEL:079-429-2200